

小学校・道徳の内容項目の解説

礼儀

●小学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること		〔一般的な呼称例〕
低学年	(1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。	礼儀
中学年	(1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。	礼儀
高学年	(1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。	礼儀

●解説

関連の説明	他の人とのかかわりにおける習慣の形成に関するものであり、状況をわきまえて心のこもった適切な礼儀正しい行為ができる児童を育てようとする内容項目である。主に、第3・4学年の2の(1)及び第5・6学年の2の(1)と深くかかわっている。
全体的な理解	礼儀は、相手の人格を尊重し、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体となって表れてこそその価値が認められる。つまり、礼儀とは、心が礼の形になって表れることであり、礼儀正しい行為をすることによって、自分も相手も気持ちよく過ごせるようになる。また、礼儀は、具体的には言葉遣い、態度や動作として表現されるが、それは、人間関係や社会生活を円滑にするために創り出された文化の一つであるということが出来る。よい人間関係を築くには、まず、気持ちのよい応対ができなければならない。それは、更に真心をもった態度と時と場をわきまえた態度へと深めていく必要がある。
低学年	この段階においては、特に健康や安全に気を付けること、物や金銭を大切にすること、身の回りを整えることなどの具体的な指導を進める必要がある。それとともに、わがままをしないで規則正しい生活をする事が自分にとって大切なことであり、そのような生活が気持ちのよいことに気付かせ、基本的な生活習慣を確実に身に付けることができるようにする必要がある。
中学年	この段階においては、児童は相手の気持ちを自分におきかえて自らの行動を考慮することができるようになってくる。例えば、あいさつや言葉遣いなど、相手の気持ちに応じた対応ができるようになる。そのことを十分考慮して、礼儀の大切さを指導する必要がある。また、この段階の児童は、気の合う友達同士で仲間集団をつくりがちであるため、特にだれに対しても真心をもって接する態度を育てることが重要である。
高学年	この段階においては、特にはきはきとした気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作などの具体的な指導を通して明るく接することのできる児童を育てることが大切である。身近な人々と明るく接する中で、気持ちよく感じる体験を数多くさせながら繰り返し指導し、しっかりと身に付けさせるようにすることが求められる。

文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年8月）より

■参考：中学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること		〔一般的な呼称例〕
(1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。		礼儀